



セカンドハーベスト名古屋

SECOND HARVEST NAGOYA PRESS

2019.12.31

NO.13

発行元 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋

〒462-0831 愛知県名古屋市中区城東町七丁目148番地

TEL:052-913-6280 FAX:052-913-6281

E-mail:info@2h-nagoya.org URL:https://www.2h-nagoya.org/

編集／印刷 橋本写植

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



セカンドハーベスト
名古屋が取り組む
SDGsは
1,2,3,11,12,17

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）読み方：エスディー・ジー・ズ」の略称です。貧困の撲滅や格差是正、食品ロス削減等、国際社会が2030年までに達成すべきと国連で定めた17の目標です。

現在、国や地方自治体ではこの目標に沿った立法や街づくりを進め、企業では社会的な課題を解決し企業価値を高めるため経営戦略に反映させる動きが盛んです。このSDGsの視点から、今、フードバンク活動に大きな注目が集まっています。

私たちセカンドハーベスト名古屋は「フードバン

ク活動を通じ東海地方における食のセーフティネットを構築する」をミッションに掲げ、主にまだ食べられるにも関わらず捨てられる運命にある食品（食品ロス）を企業・個人から寄付いただき、生活に困っている人や福祉団体へ無償で提供するフードバンク活動を東海地方で行っています。この活動を通じ、経済状態によらず誰もが安全で栄養価のある食事を得られる社会の実現を目指しています。

CONTENTS

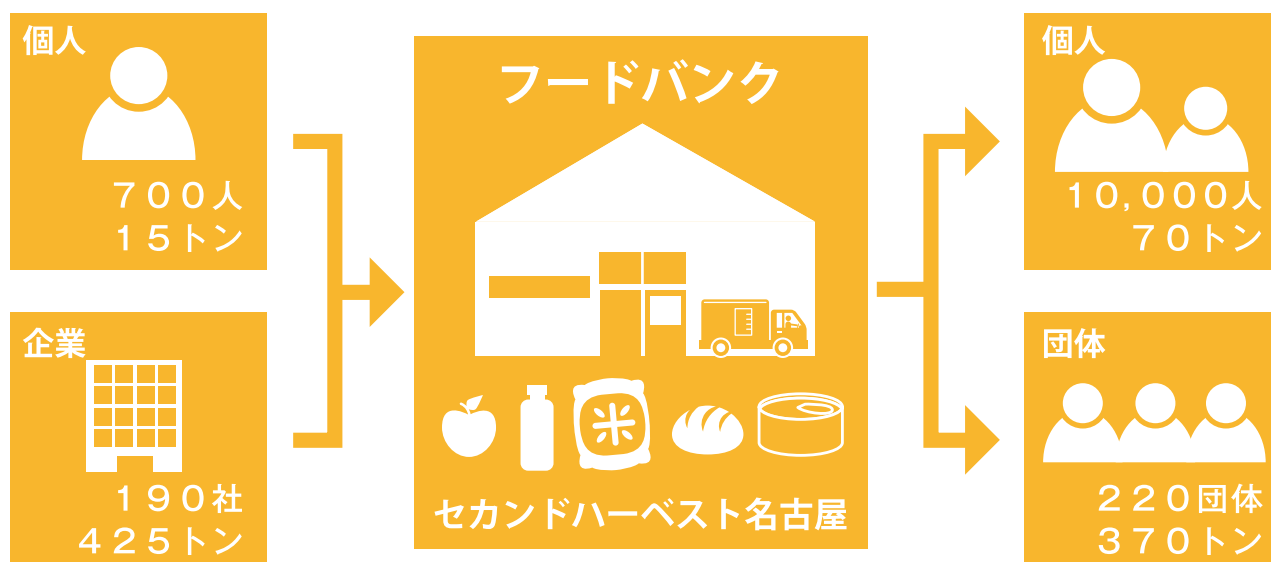
フードバンクとSDGs	p.1
2019年度の実績の概要	p.2~4

フー ド バ ン ク の 機 能

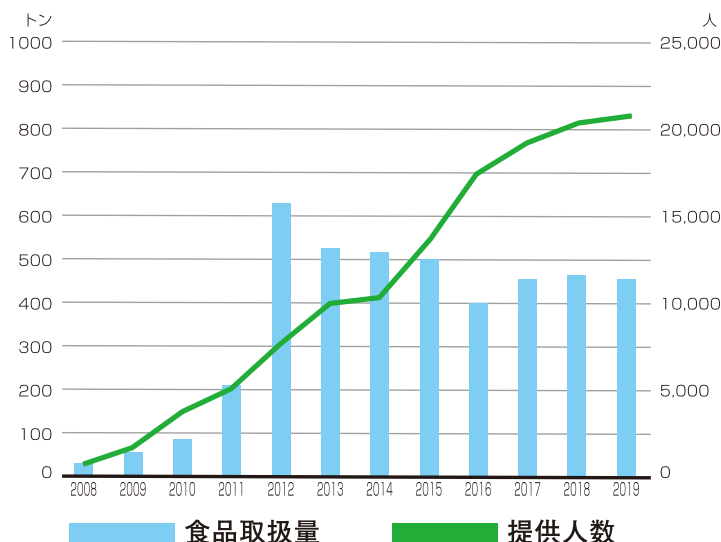
食 品 を 「 集 め る 」 「 保 管 す る 」 「 配 る 」

2019年度190社から425トンの食品を、700人の一般市民から15トンの食品を寄付いただきました。その内生活に困っている人が必要とする主食・主菜になるお米・パンを45トン冷蔵冷凍品は44トン寄付いただきました。農林水産省の調査によると、全国100のフードバンク団体のうち、取扱量が100トンを超えるのはわずか1割にしか過ぎないことから、その取扱量と種類の多さから、セカンドハーベスト名古屋は東海地方最大であると言えます。

その成果においてまず、440トンの食品が捨てられることなく生活に困っている人に食べていただきました。また、食品を受け取った人にとっては体力の回復や食費の節約、精神的な安定等、単にお腹がいっぱいになる以上の成果があります。また、370トンを小売り価格に換算すると2億2,000万円に相当し、この金額を福祉団体へ提供することで食事の質的向上や食費の削減により団体の活動が活性化し、地域の福祉活動が促進されます。



食品取扱量と提供人数の推移

食品を受け取った人からの
実際の声

- 久しぶりにお腹いっぱい食べられます
- 箱を開けたらこんなに沢山の食品が入っていて驚きました
- 相談窓口に行って相談すると翌日届きありがたかったです
- 病気が回復しましたら活動の手伝いをさせてください
- お菓子も入っていて、子ども達の笑顔が見えて私も頑張ろうという気持ちがわいてきました

食品の引取りや仕分けなど活動を支える

50名のボランティア

倉庫や市場への食品引き取り、賞味期限の確認や仕分け、受け取りに来た福祉団体への提供や個人へ届ける食品の詰合せ作成、パソコンを使った入出庫の記録作業等、多岐にわたるフードバンク活動。それを担うのは20～80代の男女50名のボランティアです。2019年度は定期的に活動するボランティアが約10名増えました。その多くが定年退職したシニアや子育てが一段落した主婦、中には現役の会社員や教師等、それぞれが「できる時に、できる事を、できる範囲」で

シフトを組み、1日に10～15人のボランティアが活動を支えています。参加のきっかけは「空いた時間で何かしたい」「社会勉強のため」「困っている人を助けたい」など様々ですが、この活動を通じ、「仲間ができた」「地域との繋がりができた」「楽しい」「誰かの役に立っている実感を得た」と感じており、地域の生活に困っている人を、その地域に住む人達が企業や行政と協力して支え合えるまちづくりにも繋がっています。

ボランティアインタビュー

今回は家庭科の教員を退職後ボランティアとして参加している渡辺さんへインタビューしました。

Q:活動に参加したキッカケを教えてください。



家庭科の教員をしていたとき、国連WFPの資料を読みました。経済的な豊かさの裏側で、日本では国連WFPの食料援助量の倍以上の食品が捨てられていることを知りショックを受けました。さらに、そこにはフードバンクの活動も紹介されており、とても興味を惹かれました。その後、退職を機に思い切って連絡をとり、週1回のボランティアからはじめました。

Q:活動の魅力は何ですか？

仲間に恵まれて、気持ちよく活動ができているところです。また、自分でも驚きますが忙しいとき無心で作業できるボランティア活動に不思議な魅力を感じています。

Q:普段はどんな活動をしていますか？



引き取りに来られるパートナー団体（2HNが食品を提供する福祉団体）の要望に沿って食品を準備します。また、生活に困っている人へ食品の詰合せをつくるため、行政が設置した相談窓口から送られてくる依

頼書の情報をパソコンに入力しています。

Q:最後に一言

フードバンクは生活に困窮している人々の食のセーフティネットとして、とても大切な役割を果たしています。

この活動は緊急避難的性格を持っており、それ故に社会的弱者の背景に目を向けることを忘れてはならないと思います。

私は一人でも多くの方に厳しい生活のなか、ほんの一息ささやかなゆとりを感じていただけたらと願いつつボランティアをさせて頂いています。

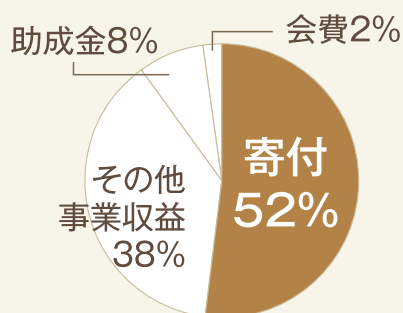
倉庫代や運送代など活動に必要なお金を 支える企業・団体・個人からの寄付金

フードバンク活動は、寄付いただいた食品を生活に困っている人へ無償で提供するため、運営資金を得ることが困難です。しかし、食品を届けるためには、保管する倉庫代、届けるための送料、車を動かすための燃料代、人件費も必要です。これら活動に必要な経費を、2HNでは企業・団体・個人の皆さまからの寄付金により支えていただいています。

2019年度は20企業・140団体から約790万円、400名の個人から約570万円の寄付をいただきました。

2019年10月、国や自治体によるフードバンクへの支援を義務化した食品ロス削減法が施行され、行政から何らかの支援（補助金）が得られる可能性が出てきました。しかし、あくまでも努力義務であるため、必ず得られるとは限りません。さらに私達はフードバンク活動を、一部の補助金だけに依存することなく、活動に関わる企業・行政・福祉団体・市民等様々な人の協力（パートナーシップ）により持続可能な活動にしたいと考えています。活動を応援してくださる皆さまからのご支援何卒お願いします。

2019年度財源ごとの収入割合



- セカンドハーベスト名古屋は2019年度年間2,600万円の予算で活動を行っており、その半分以上は企業・団体・個人の皆さまからの寄付金です。
- その他事業収益とは相談窓口から依頼を受け食品の詰合せを届けるために必要な実費の一部を相談窓口に負担いただいているものです。

支援の方法

セカンドハーベスト名古屋の活動は皆さまのご寄付によって支えられています。「東海地方における食のセーフティネットを構築する」ため、食品とお金をご寄付ください。

■食 品

現在、特にお米が足りません。ご寄付いただける方は、玄米の状態でご当団体事務所兼倉庫へお送りください。東海地方の生活に困っている人や、ひとり親家庭、児童養護施設を退所した子ども達へお届けします。

■お 金

銀行振込

三菱 UFJ 銀行 栄町支店 普通口座 0015287
 特定非営利活動法人 セカンドハーベスト名古屋
 ※領収書が必要な方は、info@2h-nagoya.org までご連絡ください。

クレジット カード

単発での寄付だけではなく、毎月の継続寄付メニューもご用意しております。
 ■ 1,000円/月 ■ 3,000円/月 ■ 5,000円/月 ■ 10,000円/月

セカンドハーベスト名古屋 寄付 検索



当団体は名古屋市の認定を受けた「認定 NPO 法人」です。企業個人とも税制上の優遇措置が受けられ個人の場合、寄付金額の最大約半分が戻ってきます。